

令和6年度無償資金協力（UNOPS 連携）医療廃棄物焼却炉の引渡式

8月26日、前川信隆大使は、「ジンバブエにおける医療廃棄物管理プロジェクト（UNOPS 連携）」の下で供与された、日本の廃棄物焼却技術を用いた医療用廃棄物焼却炉の引渡式に出席しました。このプロジェクトは、日本による220万米ドルの支援により、ジンバブエ保健・育児省及びUNOPSとの連携の下、実施されています。

ジンバブエではこれまで野焼きや選別が不十分な旧来の処分方法により、医療廃棄物からの医療関係者等への感染が懸念されていました。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を通じて、医療廃棄物の量が膨大となり、適切な医療廃棄物の管理が極めて重要であることが改めて認識されました。しかしながら、ジンバブエでは対応可能な施設がなく、適切な処理ができませんでした。かかる状況を受けて、日本は、ジンバブエの3か所の主要な病院（パリレニャトワ病院、ユナイテッド・ブラワヨ病院、マシング州立病院）に日本の最新技術を搭載した医療廃棄物焼却炉を導入しました。

この焼却炉は、日本の最先端の技術により、医療廃棄物に含まれるプラスチックを燃料として活用することで燃料を節減でき、また、高温で処理することで煙が出ないことから医療廃棄物の処理効率が大幅に向上し、環境への影響も低減されます。この医療用焼却炉の供与を通じて、病院で発生する医療廃棄物の適切な管理が進められることにより、医療廃棄物を介した感染の拡大防止や周辺環境の汚染の防止、医療従事者の健康保護が期待されます。

引渡式は、3病院を代表して、ハラレにあるパリレニャトワ病院で開催され、前川大使のほか、スレイマン・ティミオス・クウィディニ保健・育児副大臣、ナジブラ・サフィ WHO ジンバブエ副代表、クレメント・ムランガ UNOPS ジンバブエ代表、医療関係者が参加しました。



焼却炉の視察



焼却炉のテープカット

関係者による記念撮影



式典の様子



前川大使のスピーチ